

平成29年度

事務事業評価表 A (平成28年度の実績評価)

記入年月日  
平成 29 年 4 月 14 日

事務事業名		離乳食教室事業			事業区分		担当	
		政策体系上の位置付け			新規/継続	継続	事務事業No.	020103000337
総合計画の施策名		0201 健康づくりの推進			単独/補助	単独	所属課	040401
政策名		02 安心と安らぎのある健康福祉社会づくり			主要事業	対象外	健康推進課	
施策名		01 健康づくりの推進			市長マニフェスト	対象外		
基本事業名		03 母子の健康づくり			未来PJ事業	対象外	グループ	母子
					合併建設計画事業	対象外		
財務会計上の位置付け					事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計	
	01	04	01	01	03	00	母子衛生事業	
法令根拠					単年度繰返し (昭和55年度~)			
母子保健法、食育基本法					☞ 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入			

【Do】 1. 事務事業の現状把握 (その1)

(1) 事務事業の概要	
①事務事業の概要(事務事業の全体像)	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順
乳児の健全な育成の援助を目的として、子どもの成長にあった食量や作り方などを支援するために離乳食教室を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の企画</li> <li>・食生活改善推進員、子育てアドバイザーへの協力依頼</li> <li>・対象者を抽出し、個別通知を行う</li> <li>・配布資料作成</li> <li>・食料準備</li> <li>・教室の開催(年4回)</li> <li>・実績報告</li> </ul>

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移							
①手段 (担当者の活動内容)	④活動指標 (活動量を表す指標)	単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	30年度 (目標)	31年度 (目標)
身体計測や栄養の講話、試食を含めた内容で実施。	離乳食の開催回数	回	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象 (誰、何を対象にしているのか)	⑤対象指標 (対象の大きさを表す指標)	単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	30年度 (目標)	31年度 (目標)
生後4~6か月児とその保護者。	生後4~6か月児の人数	人	228.00	239.00	220.00	220.00	220.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか)	⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	単位	27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	30年度 (目標)	31年度 (目標)
乳児の成長に合わせた離乳食について理解でき、スムーズに離乳食が進められる。	1歳6か月児健診で母乳やミルクを飲んでいる児の割合	%	25.20	26.20	26.00	25.50	25.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量(事業費)の推移		27年度 (実績)	28年度 (実績)	29年度 (計画)	30年度 (目標)	31年度 (目標)	期間限定 総投入量
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0
		県支出金	千円	0	0	0	0
		地方債	千円	0	0	0	0
		使用料・手数料	千円	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	0	0
		一般財源	千円	2	2	17	17
	事業費計(A)	千円	2	2	17	17	
人件費	正規職員従事人数	人	4.00人	3.00人	4.00人	4.00人	
	述べ業務時間	時間	77.30	80.00	80.00	80.00	
	人件費計(B)	千円	224	232	232	232	
トータルコスト(A)+(B)		千円	226	234	249	249	254

事業費の内訳	28年度事業費 実績(千円)			29年度事業費 予算(千円)		
	11 需用費	2		11 需用費	17	
	合計	2		合計	17	

(4) 当該年度の実施内容	29年度の事業内容	30年度の事業内容	31年度の事業内容
※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要事業</li> <li>・市長マニフェスト</li> <li>・未来PJ事業</li> <li>・合併建設計画事業</li> </ul>			

事務事業名	離乳食教室事業	事務事業No.	20103000337	所属課	健康推進課
-------	---------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	
母子保健法に基づき、昭和55年より実施している。平成7年12月に国から「改定離乳の基本」で、具体的な離乳食の目安が示され、平成19年3月に策定された「授乳・離乳の支援ガイド」では、授乳や離乳食を通し、健やかな親子関係の形成や子どもの健やかな成長・発達を目指し、それぞれの子どもの個性や発達を尊重した支援が望まれるようになった。	
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?	
核家族化が進み、育児と同様に離乳食に対する不安も増えている。食事面での不安解消や母親同士の情報交換の場として年々利用者が増えている。参加者からは、離乳食をつくる際に味や固さの参考になった、家でもつくってみたいなどの感想があった。	
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	
改革改善を行う	平成27年度で1歳6か月児健診時に母乳や育児用ミルクを飲んでいる人の割合が増加したため、乳幼児健診や離乳食相談等で離乳食の完了時期について周知していく。また、離乳食の完了時期が生後12~18か月であるため、1歳児健診や1歳6か月健診等で支援が必要な方には個別に対応していく。

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

評価項目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 試食体験を通し、保護者にとって慣れない離乳食への不安や悩みを解消する手助けとなり、健康づくりの推進に結びついている。
有効性	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)
	<input checked="" type="checkbox"/> 妥当である 核家族化が進む中、情報交換の場として、親子双方にとって慣れない授乳や離乳食を体験する過程を支援する場合は、市の事業として実施していく必要がある。
効率性	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 平成27年度で1歳6か月児健診時に母乳や育児用ミルクを飲んでいる人の割合が増加したため、乳幼児健診や離乳食相談等で離乳食の完了時期について周知していく必要がある。
	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)
公平性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか? (市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ⇨ 具体的な手段、事務事業名
	<input checked="" type="checkbox"/> 余地がない 類似事業なし。
公平性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか? やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 事業費については、試食の材料費が主であるため、削減の余地はない。人件費については、食生活改善推進員や子育てアドバイザーの協力を得ており、これ以上の削減の余地はない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正になっているか?)
	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 健康カレンダー、ホームページ等で周知を行い、対象者へは個別通知しているため、受益機会は公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
①目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	⇨	平成28年度1歳6か月児健診時に母乳や育児用ミルクを飲んでいる人の割合は26.2%であり、前年度より割合が増加していた。生活習慣病予防の観点より、この時期に健康的な食習慣の基礎を培うことが重要であるため、乳幼児健診や離乳食相談等で離乳食の進め方や完了時期について周知していく必要がある。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下			×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上		○																							
	維持			×																						
	低下			×																						
前年度と比較すると、1歳6か月児健診時に母乳や育児用ミルクを飲んでいる人の割合が増加した。離乳食の完了時期が生後12~18か月であるため、離乳食相談や1歳児健診、1歳6か月児健診等で支援が必要な方には個別に対応していく。		(6) 事務事業優先度評価結果																								
		成果優先度評価結果																								
		コスト削減優先度評価結果																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input checked="" type="checkbox"/> B A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> A B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>